

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470200946
法人名	社会福祉法人 青山会
事業所名	小山田 グループホーム
所在地 (電話番号)	四日市市山田町5516-1 (電話) 0593-28-8027
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成19年6月6日(水)

【情報提供票より】 (H19年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 7人, 非常勤 10人, 常勤換算 11人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300円		

(4) 利用者の概要(6 月 1 日現在)

利用者人数	16 名	男性 0 名	女性 16 名
要介護1	12 名	要介護2	4 名
要介護3	0 名	要介護4	0 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	81.18 歳	最低 66 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小山田記念温泉病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは鈴鹿山麓を背に長閑な環境の中で病院と各種介護サービスを展開する一大介護施設群の一角に位置している。“高齢者が自信を持って安心して生活できる環境作りと支援を行う”を理念に、経験豊かな管理者の下で利用者一人ひとりの思いと尊厳が尊重された温かい介護が実践されている。また、隣接する病院や介護施設との連携も深く、利用者の様態の変化や災害時の支援体制も構築されており、利用者・家族の安心感につながっていると共に、職員の余裕ある介護にも大きく資している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 介護計画の書式が解りづらい問題は、職員間で検討され変更されたが、より良いものになったとは言いがたく、計画作成者の交代もあり、計画作成過程から再検討を行っている最中である。組織が大きく法人代表との協働体制が希薄であったが、運営資金(予算)等の代表権限の多くの部分が管理者に任せられる体制に変更された。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ① 評価方式の変更に伴う理解や準備が不十分で時間的余裕が無く、今回の評価は管理者のみの所見で作成されている。(過去3回の評価実績があり、評価の意義は浸透している)
重点項目	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 市との調整、人選を考慮中で未だ設置に至っていない。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 内・外の相談窓口の告知、ご意見箱の設置はされているが、不満・苦情はほとんど出されていない。家族訪問が多いのでその都度声掛けをし、意見・要望を聞きだすように努めている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 広大な医療・福祉施設群の一角に位置しており、地元住民と交流をもち、難しい環境にあるが、同法人の美術館での利用者作品展に地域住民を招待したり、地区運動会への参加や地元農家で芋掘りをさせてもらう等、交流に取り組んでいる。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者が自信と安心を持ち生活できる環境づくりと支援を行っていく」との理念で日々の業務を展開している。	○	グループホームの基本方針が改正され、『家庭的な環境の下での暮らし』に加え地域密着型サービス(地域住民との交流の下で)としての役割も踏まえた理念が求められている。今一度全職員で意義を話し合い検証して欲しい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	従来の理念は事務室に分かり易く掲示され職員の意識付けとなっており、それに沿った日々の支援が心掛けられている。	○	新しく検証された理念を基に、職員の認識を深め実践に繋げて行くことを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	広大な医療・福祉施設群の一角に位置しており、地元住民との交流が持ち難い環境にあるが、同法人美術館での利用者作品展に地域住民を招待したり、地区運動会への参加や地元農家で芋掘りをさせてもらう等、交流に取り組んでいる。	○	ホームとして地元住民との交流に努力されているが、法人としての地域への周知度が高過ぎ、グループホーム独自の周知が希薄になっている。地域密着型サービスの一環であるホーム機能の啓蒙も含め、認識度を高める地域交流が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	3回の評価実績があり、評価の意義は浸透している。外部評価の結果は話し合わせ、試行錯誤しながら改善に取り組んでいる。今回の評価は変更に伴う理解や準備が不十分で、自己評価を管理者のみの所見で作成されている。	○	外部評価後の課題について漫然と取り組むのではなく、改善計画をたて、実施状況・結果を確認できる形で取り組んで行って欲しい。また自己評価には全職員が関わり、職員の質の確保・向上に資するような活用を期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市との調整・人選中で未だ設置されていない。	○	難しく考えずに利用者・家族・地域住民・地域包括支援センター等の身近で理解を得られる人々に参加を呼びかけ、早期の立ち上げが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市所管の地域包括支援センター・在宅介護支援センターが同法人敷地内に設置されており、事ある毎に相談・指導等を受けたり、地域の高齢者講座(小山田学校)開催に協力する等、連携を密に取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	要介護1・2の利用者が大多数で、日々の金銭管理は利用者自ら管理(職員は見守り)しており、受診も家族支援で行われている。また、家族の訪問も多く、その都度状況報告が行われており、利用料のみ家族に月例報告されている。	○	ホーム便りの発行を模索中との事なので、ホームの暮らしぶりやニュース(職員異動等)の発信と共に、紙面に個別コーナーを設け職員や本人の言葉を添える等、工夫ある便りの早期発行を期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	内・外の相談窓口の告知やご意見箱の設置はされているが、不満・苦情はほとんど出されていない。家族訪問が多いのでその都度声掛けをし、意見・要望を聞きだすように努めている。	○	家族会が設置されていないので、運営推進会議を早急に立ち上げ、活用していくことで家族・利用者の意見・要望の抽出に資して欲しい。また“ご意見箱”も設置しているだけでなく、○×式アンケート用紙を準備する等、意見の出しやすい工夫を考えて欲しい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動・離職は最小限に止められており、補充は法人内異動で介護経験者が配属されており、安定したケア確保が図られている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験豊かな管理者がスーパーバイザーとして職員のアドバイスに当たっており、各種外部研修にも職員の能力に応じて順次受講させている。また同法人の他所グループホームとも連携を図り、共催で必要な内部研修を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会(集い)に全職員が交代で積極的に参加し、研修会・見学会・意見交換会等で交流を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ケアマネジャーとの連携を密に取りながら、本人・家族のホーム見学や体験入居・ショートステイにも対応しており、納得し安心感を持って利用してもらう様に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	比較的元気な利用者が多く、家事にも積極的に参加しており、協働しながら生活している様子が窺えた。特に若い職員に利用者が孫に接するような態度や会話を交わすのを見て、微笑ましく感じた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	隣接する特養入所の妻を見舞う利用者につき添ったり、日に数回の散歩に同行したりと、一人ひとりの要望や意向を把握し出来る限りの支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当が日々の介護日誌・ミーティングでの意見を拾い上げ原案を作り、職員の意見を聞いた上で計画書が作成されている。しかしケア会議等の職員全員で検討する機会が設けられておらず、職員等の意見反映の薄い介護計画となっている。	○	日々の介護の中で利用者の様態や思い、家族の声を直接聞いている現場職員の意見は介護計画作成に不可欠である。全職員の英知を反映した利用者本位の計画作りのシステムを考えて欲しい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	比較的元気な利用者が多く変化の少ない事もあるが、介護計画書に目標期間設定が無い。また、検証(評価)も成されないまま見直しが行われ、継続的計画となっている。	○	利用者の生活機能向上を目指した支援の為には、介護の指針となる介護計画の目標と随時検証が必要となる。変化の無い場合でも新鮮な目で現状とズレが無いか月に1回程度は確認をして欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの短期利用(ショートステイ)も実施しており、隣接の通所介護や特養と連携を図り、各種催しに利用者が参加出来る様に支援している。	○	利用者・家族の安心や負担軽減に役立つ医療連携体制加算を申請中との事なので、体制を整え有効活用していく事が期待される。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通常は家族が受診に付き添っているが、家族が不都合な時や緊急時には、代行している。受診前後には家族と情報の共有を密におこなっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアまでを目指し、本人・家族の意向確認方法や医療体制の整備を進めている(医療連携体制加算を申請中)。	○	終末期ケアには、職員の負担・技量が重くなる。計画的な職員研修が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人を尊重した介護を年間目標に、入室時のノック・入浴・排泄に対し特に注意を払った対応が心掛けられている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の自由な暮らしを尊重しており、各自のペースに寄り添った支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い出しから調理、後片付けまで利用者が自発的意思で関わってもらおう、職員は上手く支援している。また、利用者と職員と一緒に食卓を囲み料理の感想など話し合い、和気藹藹と食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後には準備をし、利用者の希望を大切にプライバシーを尊重し、能力に沿った入浴介助が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者に決して強制することなく、したい事・出切る事を活かした支援を心掛けている。得意分野を發揮してもらう中で役割や楽しみ事が増えていっており、それを尊重した介護が実践されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺は広大な敷地に同法人施設が点在しており、利用者が安心して散策出来る環境が整っている。散歩はもとより、他施設に入所中の妻や知人を見舞ったり、他施設の催しへの参加や移動売店に出かける等、利用者の意向に合わせた頻繁な外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は施錠していない。自室の施錠に関しては、利用者が自由意志で自己管理を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年防災の日には、避難訓練・非常食体験を実施している。また、緊急連絡網も整備され、隣接施設の緊急時応援体制も出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューは法人の管理栄養士が考え、それを基本に調理しており、バランスの取れた食事になっている。摂取量は、問題のある利用者のみ詳細な記録が取られている。	○	高齢者の日々の水分・食事の摂取状況の把握は健康管理をする上で重要である。各利用者の日々の摂取量を全職員が常時確認出来る形で、記録として残して欲しい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は、高齢者の生活に配慮の行き届いた設計・整備が成されている。居間には、季節に合わせたタペストリーや花が飾られ、玄関前や廊下・居間等にベンチやソファ・椅子が置かれ自由に過ごせる居場所が確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドのみホーム備え付けで、利用者はテレビや冷蔵庫・家具・仏壇等思い思いの備品を持ち込み、好みの居室作りがなされている。		